

—地域とスポーツ—

スポーツボランティアの“人と経験”をつないでいく 宮城県仙台市／市民スポーツボランティア SV2004

「市民スポーツボランティア SV2004」（以下 SV2004）は、16 年前、仙台・宮城で開催されるスポーツをサポートしようと地域の人々が集まって結成した団体です。楽天イーグルスの試合や仙台国際ハーフマラソン大会など、様々なスポーツイベントにボランティアとして関わっています。代表理事の泉田和雄さんは、発足以来、仲間とともにスポーツボランティアの輪を広げ、学び合う活動を続けてきました。その活動が一旦ストップしたのが東日本大震災でした。「すべてのスポーツが休止し、SV2004 の仲間も多くは被災者として自分の生活再建に頑張るしかありませんでした」。活動に戻るきっかけとなったのは「4 月 29 日復興デー」でした。東北新幹線と仙台市地下鉄再開に合わせ、ベガルタ仙台と楽天イーグルスのホーム開幕戦が行なわれたのです。

さらに 5 月、SV2004 は緊急の東北スポーツボランティアサミットを開催しました。「スポーツボランティアは震災では無力ですが、スポーツには人を笑顔にし、元気にする力があります」。そこで「スポーツで笑顔を未来に」という宣言を出し、特に子どもたちのために何ができるかを話し合いました。

7 月、楽天イーグルスの球場でプロ野球のオールスターゲームが開催され、被災地から 3,000 人を超える子どもたちが招待されました。SV2004 などのメンバーは全国から駆け付けた 100 人以上のボランティアとともに招待された子どもたちの対応をしました。

去年は岩手県釜石市でラグビーワールドカップが実施され、泉田さんも地元の人たちの活動を支援するため何度か足を運びました。「釜石の方々は“震災の後、ワールドカップという目標が先にある、ラグビーを見に世界からお客さんが来ると思って、前を向くことができた”と言っていました。大会成功のために動いた釜石の方々の“人と経験”はレガシー（遺産）となって今後につながっていくでしょう。それはどこの地域も同じです」。

今年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。宮城でも春に聖火リレー、夏には宮城スタジアムでサッカー予選が行なわれます。SV2004 の会員もボランティアとして参加する予定です。「これを機にスポーツボランティアを経験する方が増えるでしょう。そうした方々が、オリンピック・パラリンピックが終わっても地域のスポーツのために活動をしていけるような流れをつくれたら嬉しいですね」。



▲「スポーツボランティアは楽しいからこそ続けていける」と泉田和雄さん。「長時間のエコ活動や観客対応など大変なことも多いのですが、その場にいられる幸せというのがある」と言います。



▲SV2004 の会員は現在 137 名。スポーツボランティアの依頼も年々増えています。写真は昨年 11 月仙台市体育館で開催されたバレーボール V リーグ男子公式戦でのミーティング風景。